

平成30年度第1回三木市創生計画策定検証委員会の概要

日 時:平成30年9月28日(金)

午後2時 ~ 午後4時

会 場:三木市役所4階特別会議室

平成27年度に策定した「三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略」(以下、「創生計画」という。)に基づく施策等の効果検証及び計画の見直し(ローリング)を実施するため、平成30年度第1回三木市創生計画策定検証委員会(以下、「創生委員会」という。)を開催し、委員から意見をいただいた。創生委員会における主な事項は、次のとおり。

説明事項

- ・三木市創生計画第3版 概要版について
- ・資料1 地方創生関係交付金～事業・KPI検証資料～
- ・資料2 創生計画と総合計画について

概要

三木創生を進めるため、三木市の現状把握を行うとともに、人口減少社会から考えられる未来年表などを参考に、中・長期的な視点で自由な意見交換を行った。

今後の進め方

平成30年度に見直し方針が決定したものを反映させ、3月末に創生計画第4版として改訂。

なお、平成30年度は、第1期創生計画(平成27～31年度)も残り2年となることから、新たに策定に着手する三木市総合計画の内容の整合を図るとともに、第1期の検証に加え、第2期(平成32～36年度)の策定も視野に進めていく。

主な意見

【意見交換】

- 「人口減少社会に対応したまちづくり」について
- ・人口減少が進む中、近隣市同士で競争をすれば地域の疲弊を招くことになる。

そのため、これからは地域間の共存が必要である。

- ・住みやすいまちとは、他の地域からの移住者を積極的に受け入れる「寛容性」が一つのテーマとなり、これからのまちづくりに求められるものであると考える。
- ・ここ数カ月で地震、台風及び豪雨といった大きな災害が立て続けに発生している。大規模な災害をも想定した安心で安全なまちづくりが必要である。
- ・地方創生を総花的に進めるのは効果が薄い。力を入れる施策を絞り、三木市の長を生かした独自の施策を立てるべき。
- ・緑が丘町には一人暮らしをできる住まいが不足しているため、関西国際大学に通う学生が遠方からバイクなどで通っているのを見かける。また、ライフスタイル研究会に対し、一人暮らし用の住まいを作ってほしいという声も多く届いている。
- ・緑が丘は東からと南からの玄関口であり、緑が丘駅前を開発し、発展させることで交流人口及び定住人口の増加を期待することができる。幸い、開発に適した場所と協力してくれる事業者もある。
- ・緑が丘周辺には、市外から移住してくる方の家がいくつか建っている。中には、かつて三木市の別の地区に住んでいて一旦市外に出た後、再び三木市に移住するUターンのケースもある。
- ・人口推移の予想を見ると、2040年には人口は56,818人で高齢化率は41.4%となっている。そうすると、生涯活躍のまち推進機構で行われている高齢者が元気に活躍できるような健康管理のサポートは必要である。また、この取組を関西国際大学の看護学部と連携して行うことができれば、さらに良いものになると思う。このように、異なる世代をうまく繋げてコミュニティを作ることが重要である。
- ・昔から、緑が丘に電車・バスの拠点があればいいと思っていた。地下鉄が緑が丘まで延伸されるという話もあったが、それも無くなってしまった。また、緑が丘 - 三宮を結ぶバスがあり非常に便利ではあるが、その分電車の利用客は減っている。時間に余裕のある高齢者はバスを、通勤や通学をする方は電車を利用する傾向にある。しかし、電車は本数が少ないという問題がある。
- ・身の回りで、親と同居している方が多い。その方たちは一戸建てを買いたいと思っているが、空き家が売りに出されていないため、買うことができない。そういったところにマッチングの悪さを感じる。
- ・三木市へスポーツをする方を呼び込み、スポーツをする方たちのコミュニテ

ィで三木市の宣伝をしてもらうことにより、三木市に人を呼び込むことができるのではないか。

- ・市外から移住してくる人の中でも、仕事を求めて移住してくる人はすぐに去ってしまうことが多い。移住先でビジネスをし、何かを創造しようとする人は長く居住する傾向にある。これまでは、人口を増やすに当たって雇用の創出が必要であるという議論を行ってきたが、企業を誘致するのは容易ではない。そのため、まずは三木市に移住し事業を展開してくれるような施策を展開する方が現実的である。
- ・現在、自動運転の技術が発達しており、10年以内に自動運転のタクシーが実用化されるのではないかという説もある。この技術が実用化すれば、交通手段に困っていた高齢者も自由に出かけることができるようになり、経済の活性化につながる。これからは、そういった先進技術をも見越したまちづくりの計画を立てなくてはならない。
- ・コープこうべでは、小さな拠点づくりという事業に取り組んでいる。利用客の減少により売り場にできた余剰スペースを活用して、地域の方々が集える拠点を作った。さらに人を集めるために、様々な団体と連携し、イベントを開催した結果、多くの人で賑わう拠点となった。独居の高齢者でも気軽に立ち寄ることができる拠点があれば住みやすいまちになる。また、若い子育て世代と高齢者を集めて、子育ての知識や知恵を伝える場を設けることも考えている。その取組については、三木市にも協力してもらいたいと思っている。

■「観光振興」について

- ・先日の台風で関西国際空港の連絡橋が破損したため、外国人観光客は大きく減少した。大阪の街中の歩行者の数は減っていたが、神戸はそれほど大きな変化は無かった。これは、普段から神戸に外国からの観光客が少ないためであると考えられる。
- ・三ノ宮 - ネスタリゾート神戸間のバスは多いが、緑が丘 - ネスタリゾート神戸間のバスは非常に少ない。
- ・今回の委員会から委員に任命され、三木のことを学び、三木の観光資源の多さを初めて知った。しかし、裏を返せばそれだけ知られていないということになる。
- ・年間約100万人もの方が三木市内のゴルフ場に来ているにも関わらず、その方たちを市内の観光施設や商業施設に誘導することができていない。ゴルフ場利用客の大半は車で来場しているため、飲酒ができず、市内で飲食をす

る人は少ない。そのため、ゴルフ場利用者の大半は日帰りである。そこで、市内の宿泊施設に泊まっていただき、市内でお金を使っただけのような仕組みを作らなければならない。

- ・三木市で整備をした別所ゆめ街道のストーリーが、あまり広く知られていないように思える。アピールの方法を考える必要がある。

■「ゴルフ振興」について

- ・近年、ゴルフ人口そのものが減少している中で、どのように対応すべきかを考えなくてはならない。
- ・吉川町には宿泊施設が無いいため、他地域からゴルフをする若者を呼び込み、それをきっかけに吉川町にも宿泊施設を作してほしい。
- ・ゴルフを始めるには多くのお金がかかる上に、簡単にはプレーできるものではないというイメージが定着している。このイメージを払拭するための何らかの工夫をしなければ、ゴルフ人口の減少に歯止めをかけることはできない。
- ・ゴルフ教室の取組は非常に良いものであると思う。しかし、このままでは小学校だけの取組で終わってしまい、中学校以降でもゴルフを続けるきっかけにならない。年齢と共にプレーのレベルも上がるので、それをサポートできる制度を考える必要がある。
- ・三木市でゴルフの大きな大会があっても、宿泊は神戸という方が多い。また、京阪神から来るゴルフ場利用客のほとんどは日帰りである。こういった方たちに、三木市に宿泊してもらう工夫が必要である。また、距離も近いためお土産を買って帰る人も少ない。
- ・最近のゴルフ場は安さ重視で、人員削減を行なった結果、マナーが行き届いていないケースが多く見受けられる。
- ・平成30年3月に新名神高速道路が開通したことで、三木市へのアクセスも良くなった。これは、新名神高速道路の沿線地域へ三木市のゴルフ場を売り込む良い機会ではないかと思う。
- ・三木市ではゴルフ場スタンプラリーを行なっているが、スタンプカードを忘れてしまうことがある。そこで、スタンプカードを電子化し、スマートフォンでも利用することができれば、より多くの人に参加するようになる。
- ・スナッグゴルフの大会はあるものの、練習できる環境が整っていないのが残念に感じる。

■KPIについて

- ・三木市に限ったことではないが、K P I の評価が本来の目的に沿わないケースもあるので、それもふまえて検証を行う。
- ・施策のバロメーターとしてK P I を算出しているが、施策を正確に評価できていないK P I もある。また、目に見える成果が出るまでに時間がかかるケース又は成果が目に見えない形で現れるケースもある。それらの成果を明確にしなければ、正確な効果検証は難しい。
- ・K P I の数値は社会情勢の変化によって評価が変わってくるケースもある。そういった側面もふまえた上で効果検証をしなくてはならない。

■「農業振興」について

- ・西脇市では、日本酒を独自のブランディングで有名にした。一方、淡路島のとある酒蔵では、外部から杜氏を招き、よりおいしい日本酒を作ることに成功した。このように、特定事業への集中の方法は複数考えることができる。

■「空き家対策」について

- ・メディアや生涯活躍のまち推進機構で空き家問題を取り上げていた影響か、緑が丘では空き家活用の事業者が動き出している。

■「ゴールドenspportsイヤーズ」について

- ・来年からのゴールドenspportsイヤーズで、宿泊客を三木市にも呼び込まなければもったいない。
- ・フランスの陸上選手が三木市で事前合宿をすることやワールドマスターズゲームズのテニスが三木市で開催されることをしっかりと情報発信していただきたい。いずれも世界的に大きなイベントであるにもかかわらず、あまり知られていない。
- ・ワールドマスターズゲームズの事務局の競技部長も講演で認知度の低さを課題に挙げていた。そのため、「TSUNAGUプログラム」として、地域のスポーツ大会で、ワールドマスターズゲームズのキャラクターを無料で使用できるようにしたり、ワールドマスターズゲームズが提携しているスポーツイベントの情報発信をしたり、場合によっては有名なスポーツ選手にアンバサダーとして関わってもらおうという方法で周知していくという話をされていた。

■「生涯活躍」について

- ・畑に近い場所にケアマンションを建て、そこから畑に通って農業を続けても

らうということも考えている。

- 生涯活躍のまち推進機構では、小学生から高齢者まで、多くの世代同士がマッチングするイベントを開催している。
- 垂水病院は、地域住民向けの勉強会の開催や、生涯活躍のまち推進機構で心の相談窓口を設置するなど、大いに協力してくれている。
- 認知症を発症した高齢者や足腰の弱った高齢者のケアを、関西国際大学の看護学部生との連携によって解決できるかもしれない。

■その他

- 金物店で、良い商品を陳列しているにもかかわらず、買い物客に的確なアドバイスができないというケースを見ると、非常にもったいないと思える。